

## 真っ赤に実りました 和風園でイチゴ収穫 7/9



▲山木さんと利用者の皆さん

7月9日(水) 養護老人ホーム和風園(橋英則園長)において、いちごの収穫が行われました。今回収穫されたいちごは、旭町に在住する山木一男さんから苗の寄贈を受け、山木さん、和風園職員、利用者で育てたものです。晴天の中、利用者は実をひとつひとつ丁寧に確認し、収穫していました。山木さんは、「たくさん収穫できて、誰でも簡単に育てられるように工夫した。いちごの育て方の指導や収穫を通じて交流を深めたい。」と話していました。



## ポンプ操法訓練や分列行進 消防団が消防演習 7/10



▲放水を行う消防団員

7月10日(水) 役場前駐車場において、深川地区消防組合沼田消防団による消防演習が行われました。開会式において金平町長から「消防団のみなさまには日夜を問わず住民の生命、財産の保全をしていただき感謝している。日本各地で災害が発生しており、沼田町においても消防団や地域防災組織の支援、拡充を推進してまいりたい。」と挨拶がありました。

演習では、ポンプ車を使用したポンプ操法訓練や、分列行進などが実施されました。消防団員の日頃の訓練の成果により、どの訓練でも団員らは均整のとれた素早い動きをみせていました。



## 大きく描きました 化石特別展の絵画を制作 7/10



▲緊張しながら色を塗る児童たち

7月10日(水) 沼田小学校(藤森正男校長)で沼田町開拓120年を記念した恐竜デスモスチルスやモササウルスの特別展の開催にあたり、背景画として使用する海の絵の制作が行われました。「太古の海を想像し、昔を振り返るきっかけとしてほしい。」と化石館が展示の背景画の作成を小学校に依頼し、行われました。

制作には1~6年生全児童が参加。約30種類の青色から好きな色を選び、縦3メートル、横5メートルの大きな白布に、思い思いに筆を走らせました。今回制作された鮮やかな海の絵は、7月26日からほろしん温泉ほたる館で開催される特別展にて使用されています。

## 元気いっぱい!! 沼田保育園運動会 6/29



▲真剣な表情で取り組む園児たち

6月29日(日) 沼田保育園(土肥芳子園長)で61回目の運動会が開催されました。

この日は雲一つない晴天で絶好の運動会日和となりました。開会式で土肥園長は「持っている力を十分に出し切って、運動会を頑張る」と園児に声をかけていました。

園児は徒競走や玉入れ、綱引きなどの運動会の定番種目などを元気いっぱいに行い、満面の笑顔で走り回っていました。

保護者の応援席からも「がんばれ〜!」と園児を応援する声が盛んに飛び交い、明るい雰囲気での運動会となりました。

## 綺麗な環境のために 富岡産業(株)が除草ボランティア 6/30



▲除草作業を行う富岡産業社員の皆さん

6月30日(月) 深川市に本社を置く富岡産業(株)(富岡正幸代表取締役)が、町内で除草ボランティアを実施しました。

富岡産業は、幌加内トンネルから沼田町民体育館までの国道の年間維持や、高規格道路の工事を請け負うなど、沼田町と縁があり、昨年からは実施しています。

この日は小雨の降るなかで作業員14名が沼田町を訪れ、刈払機を使って南町の職員住宅前の用水路から下水処理施設までの区間の草を丁寧に刈り取っていました。

## 元気100倍!教室 「笑いヨガ」教室 7/4

7月4日(金) 健康福祉総合センターで「高齢者元気100倍!教室」が行われました。

この日は笑いを取り入れたヨガ教室が行われ、約30名の参加者は終始笑いながら歌や、踊りを取り入れたヨガをとても楽しそうに行い、講師の植田さんは「笑うと気分がすっきりする、朝起きたらすぐ笑うとその日1日が楽しくなる」と話し、参加者はうなずきながら笑顔で取り組んでいました。



▲笑顔一杯の参加者

## 盛大に開催されました とむとむ祭り&まちなか賑わい夕市 7/8



▲会場を盛り上げたライブツアー

7月8日(火) 駅前とむとむ広場で新鮮野菜の販売や焼き鳥、ビールなどの屋台が並んだ「とむとむ祭り&まちなか賑わい夕市」がまちなか賑わい夕市事業実行委員会の主催で開催されました。

当日は野菜の販売や飲食店の屋台、ホタテが当たるダーツや札幌の大型量販店から仕入れた商品の販売などが行われ、仕事帰りの方々や近隣住民の方が多く訪れ賑わいを見せていました。

また、夕方からは「THE TON-UP MOTORS」が全道179市町村を廻るライブツアーも開催され、町外からのファンも詰めかけ約400人が音楽やビールを楽しんでいました。



## 開拓120年記念事業 第41回町民体育祭 7/13

7月13日（日）第41回の町民体育祭が、沼田小学校グラウンドで開催されました。会場には、約1,000人の町民が集まり、開会式で大会長である金平町長が「今年、開拓120年の節目の年ですが今後も121年、122年と町は続いていきます。町民が一堂に会する体育祭は年に1度の大切な機会です。ケガのないよう存分に楽しんで、明るいまちづくりのためにも終わったあとも地域での親睦を皆さんで深めてほしい」と挨拶。その後8チームに分かれて競技を楽しみました。

競技は、おなじみの「急いで満タン」や「綱引き」などのほか、開拓120年を記念した「開拓120年回記念〇×クイズ」や「餅まき」も行われ、工夫が凝らされ運も試される楽しいものになりました。

結果は、緑組が2年振り4度目の優勝を飾り閉会しました。



ワールドカップデザイン

## 小学校に郵便局がサッカーボールの寄贈 7/16



▲大京寺局長から児童に手渡されました

7月16日(水)に沼田郵便局(大京寺義明局長)に、ブラジルで行われていたサッカーワールドカップを記念してディスプレイ用として展示されていたサッカーボールを大会が終了したことから記念に沼田小学校へ寄贈されました。

大京寺局長から「これから仲良く遊んでほしい」とボールを手渡された児童は「ありがとうございます、皆で楽しく使います」と笑顔でお礼を述べていました。

地域社会貢献の一環として

## 旭川医科大学の学生が中学校で健康教育 7/17



▲真剣な表情で聞き入る生徒たち

7月17日(木)小中高生を対象に健康教室を主催し、地域社会に貢献する理念を持った旭川医科大学の学生団体「Med-Edu(メド・エデュ)」のメンバー11名が沼田中学校(小川勉校長)で健康教育について授業を行いました。

中学生は大学生と一緒に感染症の病原菌や、何故感染するのかなどを大学生の劇などを交えながら楽しく考え、説明を真剣な表情で聞き入っていました。

子どもの笑顔のために

## 沼田長生クラブが保育園のあんどん紙張 7/16~17



▲丁寧に紙を貼る長生クラブの会員

7月16日(水)~7月17日(木)の2日間にわたり、沼田長生クラブ(野道夫会長)による沼田保育園あんどんの紙張り作業が行われました。

これは子どもたちに喜んでもらいたいと野会長の発案により、5年前から毎年継続して行われています。

今年は2日間で約50名の会員が参加。参加者は厳しい暑さの中、タオルで汗を拭いながら1枚1枚丁寧に紙を張っていました。野会長は「子どもたちのために何かできることはないかと考えた。子どもたちに喜んでもらえたら嬉しい。」と話していました。

いつまでもお元気で

## 沼田長生クラブが年祝会 7/18



▲今回お祝いされた10名の長生クラブ会員

7月18日(金)ほろしん温泉ほたる館において沼田長生クラブ(野道夫会長)の年祝い会が行われました。今回お祝いの対象となる方は喜寿11名、米寿6名、白寿1名。そのうち喜寿7名、米寿3名の計10名が出席しました。

野会長から記念品の贈呈が行われ、その後の挨拶で「長い間沼田町のために尽力していただいた。若い人にできないことを老人がやる時代がきたのではないかと。これからも色々な行事に参加していただきたい。」と挨拶し、来賓の神副町長からは「みなさまの努力によって開拓120年を迎えられた。今後より一層の福祉の充実を図っていくので、今後も元気に生活してほしい。」と挨拶がありました。

その後、生沼教育長の乾杯により宴に入り、フラダンスや日本舞踊が披露され、参加者は大いに楽しんでいました。

派遣団が決定

## ポートハーディ派遣団結成式 7/11



▲派遣団のメンバー

平成6年に姉妹都市提携をしているカナダ・ブリティッシュコロンビア州・ポートハーディ地区に町民や中学生を派遣する結成式が、7月11日(金)ゆめつくるホールで開催されました。

今年は、姉妹都市提携20年の節目を迎え、団長の生沼教育長以下中学生7名、通訳1名、引率2名の合わせて11名を派遣します。

日暮教育委員長からそれぞれに決定書を渡した後、金平町長から「今年からポートハーディの学校で学生と過ごしていただく時間を設けたので、自ら話せるよう日本や沼田の文化、歴史を勉強して当日を迎えてほしい」と激励の言葉が贈られました。

今回の派遣は、10月11日(土)から18日(土)までの期間で現地では、ホームステイで学校を訪問したり、行事等に参加をしたりして交流をする予定です。

田んぼアートも見学

## 親子農業体験イン沼田 7/12



▲田んぼアートの前で記念撮影

7月12日(土)~13日(日)の2日間で、札幌の消費者団体「アグリション21(小田たず子代表)」・沼田町特別栽培米生産者の会(畑地誉会長)が主催して「親子農業体験イン沼田」が行われました。

「親子農業体験イン沼田」は、今年で10回目となる事業で、札幌市から11組の親子が参加しました。

今年は畑地会長の水田で色彩豊かな稲を植えた「田んぼアート」が見頃を迎え、参加者は記念撮影した後、田んぼの生き物や植物についてレクチャーを受け実際に田んぼに入って除草体験をしました。参加者は足にビニールカバーをつけて田んぼに入り、ゆっくりと慎重に動いていましたが、農家の方の手を借りて楽しそうに田んぼの感触を確かめていました。

2年ぶりの訪問

## おはなしキャラバン隊が来町 7/15



▲真剣な表情で聞き入っていました

7月15日(火)講談社の「おはなしキャラバン隊」が生涯学習センターにやって来ました。このキャラバン隊は2年かけて全国を一周しているもので沼田町は2年ぶりの訪問となりました。

子ども達は、車体に大きな絵が描かれた愉快的なキャラバンカーの中の絵本を自由に読んだり、子ども館で菊池司書や講談社の宮田隊長による絵本「しゅくだい」の読み聞かせや紙芝居「もったいないばあさんまほうのくにへ」に、参加した子供たちは真剣な表情で聞き入っていました。



綺麗な道路のために

## 北央道路工業（株）が草刈ボランティア 7/18



▲綺麗に草刈りをするボランティアの皆さん

7月18日（金）北央道路工業株式会社（澤口二郎代表取締役社長）が、幌新地区のすずらん駐車公園からほろしん温泉ほたる館の約4.5キロメートルにわたり、草刈とゴミ拾いボランティアを行いました。

同社は、ほろしん温泉ほたる館で開催されている「ほたる祭り」に合わせて毎年草刈りボランティアを実施しており、今年で7回目を数えます。

作業は約20名ほどで行われ、見る見るうちに雑草が刈り取られていきました。

子育て支援事業

## ベビーマッサージ講座 7/24



▲マッサージを受け気持ちよさそうな乳児たち

7月24日（木）子育て支援センターの「ほっとママ」事業の一環として、「ベビーマッサージ講座」が行われました。

講座には生後2か月から1歳までの乳児とその母親9組が参加し、ベビーマッサージ講師の三好さんが指導を行いました。

ベビーマッサージは赤ちゃんの五感や身体の発達、夜泣きの軽減、便秘の解消などに効果があるとされ、お母さんから直接施術された赤ちゃんは気持ちよさそうな表情を浮かべ、中には寝てしまう子供もいました。

水遊びや滑り台

## いこいの広場が晴天の中開催 7/24～25



▲水鉄砲大会と、保育園の太鼓演奏

7月24日（木）～25日（金）の2日間、「町民いこいの広場」が開催されました。

開園式で商工会青年部の多田部長は「この2日間で子どもを対象にしたゲームなどを行います。子どもたちにとってこのイベントが楽しい夏休みの思い出になるように頑張ります」と挨拶。

1日目は法被を着た保育園児の太鼓演奏や、小中学校のプラスバンドの演奏、お宝まきが行われました。会場に用意された水遊び場では、子どもたちがずぶ濡れになりながらはしゃいでいました。

また、この日は日赤奉仕団が「非常食炊出し訓練体験コーナー」を設け、特殊な袋を使って炊いたお米の試食を行い、食べた人たちは「炊飯ジャーと全然変わらない」と美味しそうに食べていました。

2日目は天然雪を会場に運びこみ、真夏の水鉄砲大会が行われました。参加したチームは冷たい雪の上で白熱した戦いを繰り広げました。



華麗な技とテクニックを披露

## 第5回雪夏祭が開催 7/20

7月20日（日）全国的にも珍しい、真夏の雪まつり「雪夏祭（せっかさい）」（主催ゆきものがかり・商工会）が、北竜地区にある雪の貯蔵施設、沼田式雪山センターで行われました。

朝は、雲が多く薄暗い中でしたが、競技が始まってからは雲一つ無い青空のもとスノーボードやスキー、雪合戦の選手が、競技に挑みました。

会場には、貯蔵してある天然雪で作られた高さ約8mの雪山が登場し、参加者は、ジャンプや回転などのテクニックを披露。雪合戦会場では、地元中学生野球部なども参加し、応援する保護者などから大きな声援があがっていました。

このほか、氷水に落ちる寸前で止まる距離を競う「雪氷チキンレース」や通過するのをゴムボールで倒す「キッキングスナイパー」などが行われ、参加者だけでなく、来場した親子連れも楽しんでいました。



今年も美味しく育ちました

## トマトの初出荷・初入荷<sup>8/1</sup>



▲初出荷を行った古田さん

8月1日（金）仲町行政区の古田努さんが生産したトマトの初出荷に合わせ、北のほたるファクトリー（嶋田英樹工場長）では新工場となって初めてのトマトの入荷を行いました。品種は「なつのしゅん」で6月上旬に定植され、収穫時期を迎えたものです。

今回入荷したトマトは822kg、糖度5.9の真っ赤なトマトで、初出荷となった古田さんには嶋田工場長からご祝儀が手渡されました。

その後もコンテナにぎっしりと詰まった真っ赤に熟れたトマトが、続々と運びこまれました。

今年度のトマトジュースの生産は、6日に行われた落成記念式にあわせて開始されました。



▲稼働を始めた北のほたるファクトリー

新たなトマト加工の拠点に

## 北のほたるファクトリーが落成<sup>8/6</sup>



▲落成記念式でテープカット

8月6日（水）3月に建て替えを行った「北のほたるファクトリー」の落成式が行われました。

主力のトマトジュースのほか、トマトピューレやホールトマトの製造を行います。新たな機械の導入などにより1日8時間の稼働を想定した場合、トマトの処理能力は旧施設の6トンから10トンに増えます。

式典には約50名が参加して行われ、金平町長が「安心・安全が求められている時代、更なる販路拡大や地域振興につながるよう努力していきたい」と挨拶し、落成を記念し参加者はトマトジュースで乾杯を行いました。

## 表彰

各種団体や町内企業の皆さんが各種方面での活躍に対して、表彰されましたのでお知らせいたします。

長年の活動に感謝して

## 北方領土返還協力員永年勤続表彰



▲表彰状を受けとる郷古さん

北方領土返還協力員として永年活動されている郷古裕子さんが、北方領土復帰期成同盟（堀達也会長）から北方領土返還要求運動の実践活動に積極的に取り組み、地域住民の参加を力強く呼びかけるなど長年の活動に対し表彰され、7月4日（金）金平町長より伝達されました。